

**令和7年度 岡山大学資源植物科学研究所
アライアンス・プラチナ枠による共同研究課題募集要項**

植物研究拠点アライアンス（Plant Science Core Alliance; PSCA）は、文部科学省認定の共同利用・共同研究拠点の内、主として植物の研究を実施する拠点が連携し、植物研究を強化するために設置された拠点連合です。PSCAに参加する拠点は次のとおりです。

- ・筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター「形質転換植物デザイン研究拠点」
- ・大阪公立大学附属植物園「過去に学び未来を拓く植物多様性保全研究・教育拠点」
- ・鳥取大学乾燥地研究センター「乾燥地科学拠点」
- ・岡山大学資源植物科学研究所「植物遺伝資源・ストレス科学研究拠点」
- ・琉球大学熱帯生物圏研究センター「熱帯生物圏における先端的環境生命科学共同研究拠点」

PSCAの詳細はホームページをご覧ください。 <https://psca-jurc.com/>

PSCAでは、「アライアンス・プラチナ枠」による共同研究を実施します。「アライアンス・プラチナ枠」は、申請者が2拠点以上の受入教員とチームを組み、それらの拠点の特長を生かして設置された施設・設備を利用して行う共同研究です。

岡山大学資源植物科学研究所では、植物の遺伝資源または植物のストレス科学等に関する共同研究かつ2拠点以上の施設・設備を利用した研究を募集します。

1. 公募件数・金額

- ・若干数
- ・各拠点における支援額は以下の表のとおり

（各拠点支援額と使途の定めについて）

研究種目	大学名	予算額 (万円)	研究費	集会開催費	旅 費								
					国内旅費			外国旅費		外国からの招聘旅費			
					拠点まで	調査研究	学会発表	調査研究	学会発表	拠点まで	調査研究	学会発表	
アライアンス・プラチナ枠	筑波大学	40	○注1	△注2	○注3	○注3	×注3	×注3	×注3	○注3	○注3	×注3	
	大阪公立大学	30	○注1	×	○注2	○注2	×	○	×	○	○	×	
	鳥取大学	40	○注1	×	○	×	○	○	○	○	×	○	
	岡山大学	30	○注1	×	○注2	×	×	×	×	×	×	×	
	琉球大学	20	×	×	○	○注1	×	○注1	×	○	○注1	×	

※各大学の使途の定めに関する注意事項※

【筑波大学】

注1) 以下の用途で使うことができる。研究遂行にあたり必要となる消耗品（ただし一般的な事務用品を除く）、当センターでの実験にあたり必要となるリソース類の送料、当センター共通機器利用料、什器類、謝金

注2) 研究集会、当セミナーの会場借料

注3) 共同研究のための来学旅費及び当センターで実施する研究集会、セミナーに係る招へい旅費に限り旅費の請求可とする。やむを得ず当センター以外へ出張が必要な場合はその主旨により相応しく波及効果も十分に予想されるとセンター長が判断した場合に限り認めるものとする。

旅費の対象となるのは研究課題代表者及び「研究参加者リスト」により事前に届出があったものとする。

【大阪公立大学】

注1) 研究費は、以下に限ります。

- ① 消耗品費（単価10万円未満の物品、但し換金性の高いパソコン、タブレットは除く）及び単価10万円以上の物品のうちおよそ1年以内に消耗する物品（実験等で消費する試薬や金属片など）。書籍、ソフトウェア、ジャーナルの購入はできません。原則、納品場所は本園となります。
- ② 解析にかかる委託費用
- ③ サンプルや実験器具等の郵便運搬料（当園発着に限る）

注2) 支出は、本共同研究にかかる調査研究のための旅費に限ります。

- ・学会発表のための旅費は支出できません。
- ・自家用車（公用車を含む）を利用した場合の旅費精算はできません。
- ・旅費は、「公立大学法人教職員等以外の旅行に関する要領」及び「公立大学法人大阪教職員等以外の旅費の支給に関する要領」に基づいて算出し支給します。
- ・旅費支給の対象は、研究代表者及び申請書の「7. 研究組織」に明記された者に限ります。

【鳥取大学】

注1) 物品については、消耗品（単価10万円未満の物品（換金性の高いタブレット、デジタルカメラ及びビデオカメラは除く。）、及び単価10万円以上の物品のうちおよそ1年以内に消耗する物品）に限ります。

また、下記の項目等については、予算計上及び支出することはできません。

- ・各所属機関で整備すべき設備・備品（事務机、椅子、本棚、実験台等）
- ・汎用的な事務機器（パソコン、プリンタ等）
- ・毒物・劇物、医薬品等
- ・継続的に実施する研究補助、事務補助等に係る人件費
- ・書籍（雑誌、地図、辞書等の消耗品扱いの書籍を除く。）

【岡山大学】

注1) 消耗品費のみ支給可能です。本学受入教員に配分しますので、執行については本学受入教員までご相談下さい。

注2) 共同研究者の岡山大学資源植物科学研究所への来所に係る旅費についてのみ支給します。

他拠点窓口として招へいた外国機関の研究者の旅費については、他拠点から当研究所への来所に係る国内移動分旅費のみ支給可能です。詳細については、岡山大学資源植物科学研究所受入教員または事務室共同研究担当にお問い合わせください。

【琉球大学】

注 1) 本センター施設を目的地としない場合の旅費については、申請時に計画でそのことが記載されている場合に限り支出可能とします。

2. 申請資格

令和7年4月1日の時点で、国内の大学・公的試験研究機関に所属する研究者またはこれに相当する方（学生不可）。

なお、研究分担者には大学院生を含めることができますが、指導教員の承認及び公益財団法人日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険（付帯賠償責任保険を含む。）」またはこれと同等以上の保険に加入していることが条件となります。

3. 研究期間

研究期間は、令和7年4月1日から令和8年3月31日までの1年です。

継続のための再応募は妨げませんが、同一課題での継続は3年を上限とします。

4. 申請方法

- (1) 窓口機関を岡山大学資源植物科学研究所として研究を行う場合は、岡山大学版の共同研究課題申請書（様式1）及び所属機関長が発行した承諾書（様式2）を、「電子メール」添付（申請書・承諾書 PDF ファイル）で岡山大学資源植物科学研究所共同研究担当まで提出してください。他の拠点への改めての申請は不要です。

また、他の拠点を窓口機関とする場合は、岡山大学資源植物科学研究所への申請は不要です。

- ① 共同研究課題申請書（様式1）

- ② 所属機関長の承諾書（様式2）

※権限を有する場合は、部局長等の名義で可

※所属機関が異なる共同研究者がいる場合は、それぞれ所属機関長の承諾書（様式2）が必要となります。

※申請書等の様式は、ホームページからダウンロードしてご使用ください。

<https://www.rib.okayama-u.ac.jp/collaboration/plant-science-core-alliance/platinum>

- (2) 申請者は、共同研究を希望する拠点の受入教員と事前に打ち合わせを行った上で申請してください。

※各拠点の研究分野・所属教員・研究の概要等は、本要項の別紙1をご確認ください。

- (3) 共同研究を希望する拠点にチェックをして、受入教員の氏名を記載してください。

- (4) 同一課題での継続の場合も、申請は毎年行ってください（継続は3年まで可能）。
継続申請の場合、申請書には当初採択された課題名（日本語・英語両方）を記載して、「2. 新規・継続の別」で「継続」にチェックをしてください。
また、令和6年度採択課題ではない場合は「新規」にチェックをしてください。

5. 提出先 (e-mail)

岡山大学資源植物科学研究所 共同研究担当

E-mail : kyodo1247@adm.okayama-u.ac.jp

(件名は「令和7年度共同研究課題申請書（申請者氏名）」としてください。)

6. 提出期限

令和6年10月18日（金）（必着）

7. 採否

アライアンス・プラチナ枠選考会議において1次審査を行い、令和6年11月末に審査結果を申請者（研究代表者）に電子メールにて通知します。1次審査を通過しなかった場合は、各拠点の一般研究への申請が可能です。最終的な採否は各拠点の運営委員会の議を経て決定し、令和7年3月下旬に申請者（研究代表者）に改めて電子メールにて通知します。

8. 研究経費

- (1) 使途の定めについては大学ごとに異なりますので、申請前に各大学の受入教員にご確認ください。
- (2) 岡山大学資源植物科学研究所では、研究経費として旅費上限15万円、消耗品費上限15万円を負担します。旅費(交通費、宿泊費)については、本学の旅費規程等により共同研究者にお支払いします。ただし、車（共用車を含む）で来所される場合の交通費はお支払いできません。また、消耗品費については本学受入教員に配分します。

9. 研究成果の報告について

- (1) 研究成果報告書

令和8年3月31日（火）までに研究成果報告書（様式3）を提出してください。

なお、提出していただいた報告書は岡山大学資源植物科学研究所のホームページ及び年報において公表することがあります。

- (2) 研究成果発表会

令和8年5月に開催予定のアライアンス・プラチナ枠成果発表会にて、研究成果の報告を行ってください。

- (3) 謝辞・発表論文の提出について

本共同研究の成果を学術論文として発表される場合には、謝辞として「岡山大学資源植物科学研究所および〇〇大学における植物研究拠点アライアンス共同研究事業による(課題番号 PT#XXXX)」旨を明記してください。

(英文例)

This work was supported by the Plant Science Core Alliance (PSCA) of the Joint Usage/Research Center, Institute of Plant Science and Resources, Okayama University, ○○ University (PT#XXXX).

あわせて、発表論文の別刷り 1 部または PDF ファイルを提出してください。

※大阪公立大学附属植物園の利用がある場合は記載方法が一部異なりますので、記載する文言については岡山大学資源植物科学研究所共同研究担当に事前にご確認願います。

また、研究成果発表の際には可能な限り植物研究拠点アライアンス (PSCA) のロゴマークを付記してください。

ロゴマークは、以下のホームページからダウンロードしてください。

<https://www.alrc.tottori-u.ac.jp/japanese/activity/kyoudo/psca-logo.html>

10. 岡山大学資源植物科学研究所における留意事項

- (1) 原則として、当研究所に来所いただいたの共同研究となります。
- (2) ヒト遺伝子解析研究、組換えDNA実験、動物実験、放射性同位元素使用実験など生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究などについては、法令等に基づき本学の関連委員会による承認手続き、教育訓練の受講などが必要となる場合があります。
- (3) 知的財産権の取扱い及び守秘義務については、岡山大学共同研究取扱規程および共同研究契約書（雛形）を準用します。なお、これに拠り難い場合は、別途協議することとします。

11. 問い合わせ先

《岡山大学》

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2 丁目 20-1
岡山大学資源植物科学研究所 共同研究担当
TEL : (086)434-1247 FAX : (086)434-1249
E-mail : kyodo1247@adm.okayama-u.ac.jp

《筑波大学》

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター
TEL : 029-853-6006 FAX : 029-853-7723
E-mail : ptrad@gene.tsukuba.ac.jp

《大阪公立大学》

〒576-0004 大阪府交野市私市 2000
大阪公立大学附属植物園 拠点事務担当
TEL : 072-891-2059 FAX : 072-891-2101
E-mail : gr-bg-res@omu.ac.jp

《鳥取大学》

〒680-0001 鳥取県鳥取市浜坂 1390

鳥取大学国際乾燥地研究教育機構会計係

TEL : 0857-30-1010 FAX : 0857-29-6199

E-mail : j_research@ml.alrc.tottori-u.ac.jp

《琉球大学》

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地

琉球大学総合企画戦略部 研究推進課共同利用施設係

TEL : 098-895-8036 FAX : 098-895-8185

E-mail : knkuodor@acs.u-ryukyu.ac.jp

別紙1 令和7年度各拠点における共同研究受入教員・専門分野、研究内容及び連絡先一覧
(筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター)

教 員	専門分野	研究内容	メールアドレス …@u.tsukuba.ac.jp
教 授 菊池 彰	植物生理学	植物の環境ストレス耐性、ジャガイモの塊茎形成に関する研究	kikuchi.akira.ft
教 授 柴 博史	植物遺伝学	オミクス解析による植物の生長・発生に関わる制御機構の解明	shiba.hiroshi.gm
教 授 福田 直也	蔬菜・花卉学	野菜類における機能性物質蓄積制御機構の解明	fukuda.naoya.ka
教 授 松倉 千昭	作物学・植物生理学	果実代謝生理、糖転流制御、バイオスティミュラント等	matsukura.chiaki.fw
教 授 三浦 謙治	植物分子生物学	植物による有用タンパク質生産および植物におけるゲノム編集 汎用化技術の構築	miura.kenji.ga
教 授 渡邊 和男	植物遺伝・育種学	遺伝資源の保全と持続的利用・バイオディプロマシー	watanabe.kazuo.fa
准教授 小野 道之	植物発生生理学	光周性と花成の分子生理学、	ono.michiyuki.fm
准教授 康 承源	バイオテクノロジー	新規形質花卉・食べるワクチン開発の植物バイオテクノロジー	kang.seungwon.ga
准教授 壽崎 拓哉	蔬菜・花卉学	花卉植物の芳香成分解析及び生合成関連遺伝子の機能解明	suzaki.takuya.fn
准教授 Diana Buzas	植物分子遺伝学	果菜類のストレス耐性(耐暑性,耐寒性,耐病性など)に関する研究	buzas.mihaela.ka
助 教 小口 太一	植物分子遺伝学, エピジェネティクス	植物微生物共生および植物の環境応答機構の解明	oguchi.taichi.ge
助 教 杉本 貢一	植物分子・生理/植物 バイオテクノロジー	長期細胞記憶、多年生作物と野生植物	sugimoto.koichi.gu
助 教 野崎 翔平	植物防衛・リソース管理	植物の環境応答機構/バイオマス増産	nosaki.shohei.ff
助 教 野中 聡子	植物生化学	トマトリソースを使った食害防衛機構の解明	nonaka.satoko.gt

(大阪公立大学附属植物園)

教 員	専門分野	研究内容	メールアドレス …@omu.ac.jp
大学院理学研究科 教授 名波 哲	植物生態学	植物の多様な性表現と個体群維持機構に関する生態学的研究	snanami
大学院理学研究科 教授 伊東 明	植物生態学	植物の更新過程と多種共存機構に関する群集生態学的研究	itoha
大学院農学研究科 教授 岡澤 敦司	植物バイオテクノロジー 作物保護化学	植物による有用物質生産と生物機能などの利用による作物保護に関する研究	j21191y
大学院理学研究科 准教授 小口 理一	植物生理生態学	環境の変化に対する植物の多様な応答について物質生産の視点から研究	oguchi
大学院理学研究科 准教授 厚井 聡	植物進化形態学	極限環境に適応した植物の形態進化に関する進化発生学的研究	skoi
大学院理学研究科 特任助教 廣田 峻	植物生態学	植物の種多様性・遺伝的多様性とそれらを創出する種分化過程に関する研究	y22854u
大学院理学研究科 特任助教 渡邊 誠太	植物系統分類学	植物の形態形質と遺伝情報に基づいた系統分類学的研究と、形質進化の解明	seiwatanabe

(鳥取大学乾燥地研究センター)

教 員	専門分野	研究内容	メールアドレス ...@tottori-u.ac.jp
教 授 黒崎 泰典	ダスト気候学	ダスト（黄砂）の時間空間分布。風、土壌・地表面状態とダスト発生（風食）の関係	kuro
准教授 谷口 武士	微生物生態学	乾燥地で生育する植物共生微生物の生態学と生態系修復	takeshi
准教授 木村 玲二	気象学	大気境界層内における気象現象の観測と物理的解明	rkimura
助 教 寺本 宗正	陸域炭素循環学	土壌炭素フラックスを中心とした物質循環に関する研究	teramoto.m
助 教 石井 直浩	群集生態学	乾燥地における生物多様性と生態系機能の関係	ishii-naohiro
助 教 中山 理智	生態系生態学	窒素を中心とした陸域物質循環および物質循環に関連する微生物動態に関する研究	nakayama.m
教 授 藤巻 晴行	乾燥地灌漑排水学	節水灌漑、ウォーターハーベスティングと塩類集積対策	fujimaki
准教授 安 萍	植物生理生態学	乾燥地における農業生産の向上および植生の回復	an.ping
准教授 石井 孝佳	植物細胞遺伝学	染色体工学による新規作物改良技術の創造	ishii.t
教 授 恒川 篤史	保全情報学	乾燥地における植物生産及び生態系変化のモニタリングとモデリング	tsunekawa
教 授 坪 充	気候リスク管理学	乾燥地における農業気象と気候変動対応型農業	tsubo
准教授 井芹 慶彦	水文学	乾燥・半乾燥地における水文気象モデリング	y.iseri

(岡山大学資源植物科学研究所)

教 員 (★:グループリーダー)	専門分野	研究内容	メールアドレス …@okayama-u.ac.jp
教 授: 坂本 亘 ★	植物分子生物学、遺伝学	光合成と葉緑体の環境応答	saka
准教授: 松島 良	澱粉科学	澱粉生合成についての基盤研究と澱粉変異の育種利用	rmatsu
助 教: 小澤 真一郎	植物生化学、生理学	タンパク質科学に基づいた光合成の環境応答機構の解明	OzwShlr
助 教: 桶川 友季	植物生理学	光環境ストレス下における植物の光障害防御機構の解明	okegawa
教 授: 平山 隆志 ★	植物分子生物学	高等植物のストレス応答の分子遺伝学的研究	hira-t
准教授: 森 泉	植物生理学	気孔運動や葉内 CO ₂ 拡散の生物物理学的解析	imori
准教授: 池田 陽子	植物分子遺伝学	植物におけるエピゲノム制御のメカニズムおよび環境との相互作用	yikeda
准教授: 杉本 学 ★	環境ストレス生化学	宇宙環境における植物の適応能力の解明と宇宙環境耐性植物の開発	manabus
助 教: 力石 和英	植物分子遺伝学	コムギ種子休眠制御の解明	riki
教 授: 馬 建鋒 ★	植物栄養学	植物のミネラル輸送と制御	maj
准教授: 山地 直樹	植物分子生物学	植物の無機栄養素分配機構とその調節・制御機構の解明	n-yamaji
准教授: 三谷 奈見季	植物栄養学	植物のミネラル輸送体とその制御機構に関する研究	namiki-m
助 教: 小西 範幸	植物栄養学	ミネラル輸送体の翻訳後制御機構の解析	Noriyuki_Konishi
教 授: 且原 真木 ★	植物生理学、植物栄養学	塩ストレス応答や水輸送制御の分子および生理学的機能解明	kmaki
准教授: 佐々木 孝行	植物分子生物学、植物栄養学	植物特異的リンゴ酸輸送体による環境ストレス適応	tsasaki
助 教: 宇都木 繁子	植物分子生物学	種子形成過程におけるアクアポリンの水輸送調節メカニズムの解析	utsugi

教 員 (★:グループリーダー)	専門分野	研究内容	メールアドレス ...@okayama-u.ac.jp
教 授: 鈴木 信弘 ★	ウイルス学	ウイルスを利用して植物系状菌病を防ぐヴァイロコントロール	nsuzuki
准教授: 近藤 秀樹	ウイルス学	農作物生態系におけるウイルス多様性とその生態学的な存在意義	hkondo
准教授: 兵頭 究	植物病理学、ウイルス学	植物ウイルスの複製機構	khyodo
教 授: GALIS IVAN ★	化学生態学、植物-昆虫相互作用学	植食性昆虫に対する植物防御の分子機構の解析	igalis
准教授: 新屋 友規	植物免疫学、植物-昆虫相互作用学	植物の植食性昆虫による食害認識機構の解析	shinyat
教 授: 河野 洋治 ★	植物分子生物学、植物免疫学	免疫受容体と植物サイトカインを基盤とした植物免疫の理解	yoji.kawano
WTT 助教: 深田 史美	植物病理学、微生物学	植物病原系状菌の感染生理および植物との相互作用の解析	fumi.fukada
准教授: 谷 明生 ★	応用微生物学	植物共生細菌の分離同定・非培養的解析・メタノール資化性細菌	atani
准教授: 植木 尚子	植物分子生物学、遺伝子工学	赤潮原因藻ヘテロシグマの生態生理と増殖制御に関する研究	pdst7bim
教 授: 久野 裕 ★	植物分子育種、植物遺伝資源	遺伝子改変技術を利用したオオムギの有用遺伝子の同定	hiroshi.hisano
准教授: 最相 大輔	植物育種、植物分子遺伝、集団遺伝	作物の遺伝的多様性を農業生態系への適応分化の観点から理解する	saisho
教 授: 武田 真 ★	植物遺伝育種学	オオムギの種子および植物形態に関する遺伝生理学的研究	staketa
助 教: 山下 純	系統分類学	野生植物遺伝資源の収集、保存、系統分類及び絶滅危惧種保全研究	junyama
教 授: 山本 敏央 ★	作物育種学	多様なイネ遺伝資源が持つ有用農業形質の探索と活用	yamamo101040
准教授: 長岐 清孝	分子細胞遺伝解析学	動原体の解析および細胞遺伝学的エピジェネティック解析	nagaki
准教授: 古田 智敬	植物遺伝育種学	育種を加速させるバイオインフォマティクスツールの開発と利用	f.tomoyuki

(琉球大学熱帯生物圏研究センター)

教 員	専門分野	研究内容	メールアドレス (...@...u-ryukyu.ac.jp) AT→@へ置き換えてください
教授 瀬尾 光範	植物生理・分子生物学	植物ホルモンの作用メカニズム、種子の休眠と発芽の制御メカニズム	mseoATcomb.
准教授 岩崎 公典	遺伝資源応用学	ファイトケミカルの併用による新たな代謝調節誘導に関する研究	hiwasakiATcomb.
教授 高橋 俊一	サンゴ礁生物機能学	サンゴと褐虫藻の共生に関する研究	tshunATlab.
教授 梶田 忠	マングローブ学	マングローブ植物の系統地理学的研究、熱帯植物の系統分類学的研究	kajitaATmail.ryudai.jp
准教授 渡辺 信	マングローブ学	空撮と 3D モデリングを用いたマングローブ生理生態研究	nabeshinATlab.
准教授 内貴 章世	多様性生物学	アカネ科を中心とした被子植物の植物系統分類学的研究	naikiATlab.